

ドラえもん

ドラえもんは時折、じんとくる場面がある。ただ演じる声優が収録中に泣くわけにはいかない。大山のぶ代さんは下を向き、目を瞬かせて涙をやり過ごそうとした。ふと、そのまま目をやると、のび太もしずかちゃんもジャイアンもみんな並んで泣いていた。

ドラえもんの声を引退した大山さんに、思い出話を伺うと、印象的だったのが現場の一体感です。作品をより良くしようと互いの演技に意見を言い合い、台本を書き換えもした。2005年の声優陣を刷新したのも、「誰かが死んで辞めるのは嫌だね。」と話して決めたのだという。「本当にいい仲間たちでした。」当時のメンバーは、戦前生まれで、ほぼ同世代。しずかちゃん役の野村道子さんは「疎開など戦争中の話もずっと通じて楽しかった。」とエッセイで振り返っている。中でも大山さんは博学ぶりが際立っていたそうです。旅先では地元バスガイドが舌を巻くほど。御本人も「役者は教養が大切。必死に勉強しました。」と語っていた。

こんにちは僕ドラえもんです。

「この一言だけで喜んでもらえる。こんな幸せはありません。」と大山さんは微笑んだ。だが、その背後にある膨大な努力とチームワークこそが見るものを笑わせ、励まし、時には泣かせてきたのであろう。目を閉じるとあの声が耳に響きます。

鎌野



衆議院選挙

この「木配り」は令和6年10月28日（月）に書いています。前日の27日（日）は衆議院選挙があり、自民・公明の連立政権が大敗しました。今後の政局がどうなるのか心配ですが、選挙が公正に行われ、投票後の開票が迅速に行われる日本という国は、それだけでも素晴らしいと思います。現在の世界情勢や日本国内の状況はとてもいいとは思えませんが、日本という国はかなり恵まれている国であることは確かです。人間というのは果てしない欲望を持っており、常に現状より上を目指します。そのお陰で進化し続けて、地球での繁栄を築いているわけですが、その中でも日本人は上を目指し過ぎではないでしょうか？もう少し肩の力を抜いた暮らしができないものなのでしょうか？平成後期から令和に掛けて、どんどんとギスギスした世の中になっている気がしてなりません。ところで私、今年還暦になり、年金を前倒しで貰うことにしました。長生きの家系ではないので、生きている内に貰っておこうというのと、経営者なのでその分給料を下げれば、会社も助かりますからね。しかし、貰える年金額の少なさに愕然とする今日この頃です。

英樹

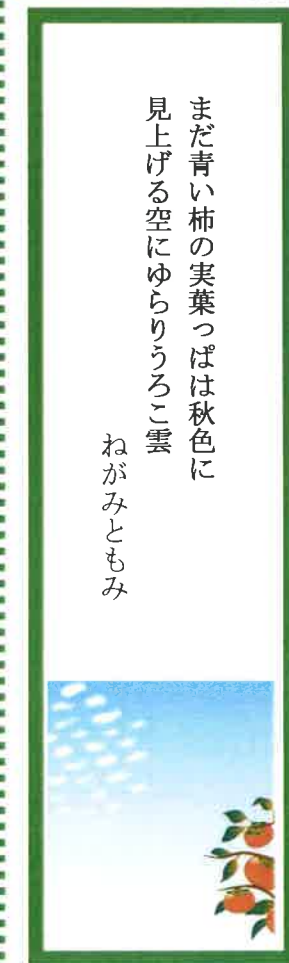


配り

第 305 便

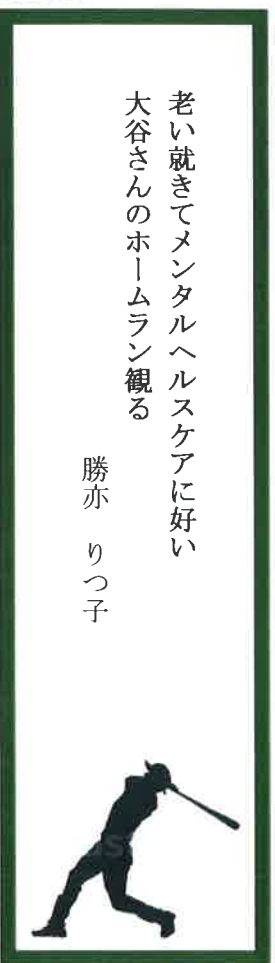
勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室
TEL (0550) 87-0048
FAX (0550) 87-1237
〒412-0035 御殿場市中山518番地



まだ青い柿の実葉っぱは秋色に見上げる空にゆらりうろこ雲

ねがみともみ



老い就きてメンタルヘルスケアに好い大谷さんのホームラン観る

勝亦 りつ子

富士山写真大賞

木配り読者の皆さんにはお馴染みかと思いますが、わたくし風景写真を撮っています。被写体は富士山がメインです。撮ると言う行為そのものが好きなので、今までコンテストなどへの応募はネットで行える簡易なモノだけに挑戦していました。しかし写真仲間からの誘いがあり、それなりに良い写真が撮れるようになってきた、との自負もありこの度、河口湖美術館第25回富士山大賞へ応募してみました。このコンテストは富士山写真コンテスト最高峰と言われており、ここで入賞することは富士山写真家としての一種のステータスであります。いやむしろ、ここに入賞しなくては富士山写真家とは名乗れないのです。というのは少し大袈裟か。

募集は4切かA4サイズのプリントで未発表の5作品まで。私はそれなりに自信のある2作品とダメ元おまけの3作品を締め切り直前に応募しました。プリント代も安くはないので実質エントリー費用は4000円を超えた。お小遣制の身分には大出費です。応募総数1167点、そのうち入賞は50点以下だそうです。入賞作品はお正月からの河口湖美術館に展示されます。最高金賞は賞金20万円！入賞でも1万円。お小遣奪還なるか！？

それは冗談として、腕自慢が競って応募する賞ですから、毎年息を飲むほどのとても素敵な富士山が並んでいます。毎年1月から。是非みなさんも足を運んでみてください。

さて、その中に私の作品が並ぶのか、賞金獲得なるか？という残念ながら今回は落選でした。しかし、写真を撮り、吟味して選び、作品に仕上げると言う一連の作業は思った以上に心躍らされました。また来年も応募して皆さんにお披露目できるような富士山を撮ってみたい！と思いました。一層精進しなくては！

柳田敏和



宝永山



現在、二十四節気の『霜降』: そうこう。秋が深まり朝霜が降りる頃。10/24~11/7頃秋らしくなりましたが、日差しが暑い。葉っぱが赤色に色づくのはもう少し先ですかね

先日、富士山の宝永山、初心者向けトレッキングツアーへ参加しました。ガイドさんつきです。富士宮5合目から6合目の上りと火口縁から樹林帯へ約3時間。バスで途中タイム場所の水が塚では観光バスが4.5台来たので、外国人かな？とみていると千葉からきたジャージ姿の中学生でキャピキャピとしています。これから行く場所はさむいよお、と挨拶を交わし。5合目で軽いストレッチをして6合目までの上りです。ツアー参加者は平日の初心者向けですから想像できる範囲のご年齢の面々です。私の口から『疲れた』。と言うわけにはいかないな。という感じ。天気は、雨こそ降りませんでした。雲の中で、風にあおられ空が見える。という天候でした。空の色は紺碧、おお！と感動しながら上り下りをてくてくと歩き、宝永第一火口でお昼タイムとなりましたが、とても寒く30分その場所にいたらまずいな・・・という気温でした。リュックの中の長いタオルを首に巻き、雨具を着て☔をそそくさと食べて。とにかく動かないと凍えてしまう。という感じでした。第一火口は、NHKのプラタモリでタモリさんが訪れて火山爆発がどうのこうのと、話していましたが、寒さでまったく思い出せません。その後第二火口を左手に山の雄大さを味わいながらひたすら下り樹林帯へ。私は登山靴ではなく裏がフラットなランニングシューズでしたので、滑る。二回ほど転びました。靴は大事だと思います。しかも、下りは膝にくる(汗)。が、口には出せません。あつという間のツアーで、まだ登れるな。と余力を残し富士山をあとにしました。

天気がいまいちでしたが、自然相手なので贖えません。また今度。

ねがみ



ハロウィン



近頃買い物に行くとハロウィン、クリスマス、お正月が混在していて賑やかなような、華やかなような…。1970年代の「キディランド原宿店」でハロウィングッズを販売したのが始まりだそうです。その後洋菓子店などでも注目され1990年代~2000年代にかけて広まったらしい。日本ではクリスマスやバレンタイン等海外文化を商業活動に取り入れてきたのでハロウィンも流行らせられたのか？もともとは古代ケルト人の収穫祭と悪霊を追い払うための行事。仮装も子供たちが中心で魔女やお化け等怖いものだそうで「トリック・オア・トリート」と言いながらお菓子をもらいに近所をまわるようですが、日本ではSNS映えを狙ったような好きなキャラクターなどに「コスプレ」する若者を中心としたイベントへ独自進化しているようです。元々「コスプレ」文化があったので日本人に受け入れやすかったのでしょうか。日本のハロウィンを目当てに日本を訪れる外国人も増えているとか。スクランブル交差点などで毎年多くの方が仮装をして盛り上がっていますが、一部の参加者の迷惑行為やごみ問題は悲しいことですね。

祥子